

マダコ



生態的特徴等

【生態】太平洋側は三陸以南、日本海側は北陸以南から九州にかけて分布する。常磐海域のマダコは、2～6月頃に主に外房周辺で産卵し、その後、三陸～外房までの広い範囲に広がり、各地先に居つく定着型の「地だこ」と、季節的に大きく移動する回遊型の「渡りだこ」の2つのタイプに分かれる。本県沖には、秋から冬に海水温の低下に伴い福島以北から渡りだこが南下してくるため、これを狙ったたこつぼ漁等が行われる。寿命は1～1.5年で、主な生息水深は100 mよりも浅い海域である。

【漁法と盛漁期】主に、たこつぼ（鹿島以南）、底曳網、たる流し（大洗以北）により漁獲され、たこつぼ漁が行われる鹿島・波崎での水揚げが多く「鹿島だこ」と称される。主漁期は12月～翌年2月頃。

【利用】活魚での流通が主流で、地だことしての評価が高い。茹でて食されることが多く、丸のまま茹でた「鹿島だこ」は地元ではお正月の食材として欠かせないものとなっている。

資源水準は中位、動向は増加傾向

（漁獲量）漁獲量は本種の生態的特徴（春に生まれたものが秋から翌年2月頃まで漁獲される）から、暦年（1月～12月）ではなく漁獲に合わせた漁期年（9月～翌年8月）で集計した。本種の漁獲量はその年に生まれた稚だこの量、冬季の渡りだこの来遊量により大きく変動する。R6漁期年は115トンであった（図1）。

（水準と動向）過去30漁期年の漁獲量から水準は「中位」、最も漁獲量が多い「たこつぼ」の漁獲量から計算したCPUEの直近5カ年の推移から動向は「増加」としたが（図2）、年変動が大きいことに留意する必要がある。

水準



動向

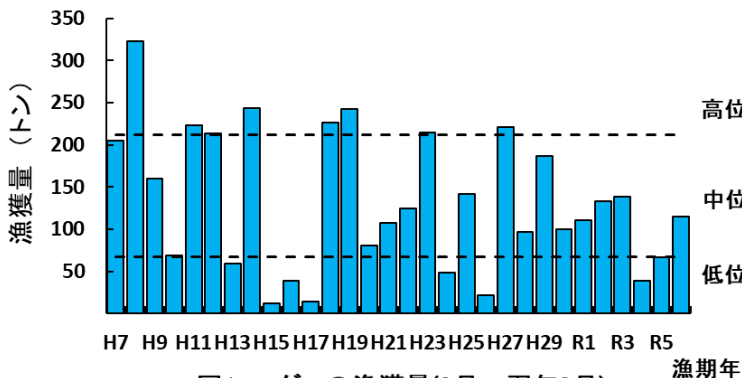
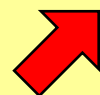


図1 マダコの漁獲量(9月～翌年8月)

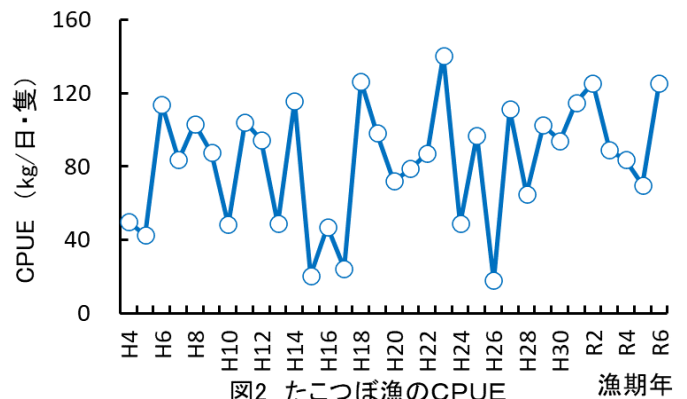


図2 たこつぼ漁のCPUE (たこつぼ漁期: 11月～翌年3月)

【全国の漁獲動向】

マダコとしての全国漁獲統計はないが、東北・常磐・房総以外の主な産地は、兵庫県（明石）、岡山県（下津井）などである。